

第3次射水市総合計画策定に関する 広聴事業 結果報告書

目 次

1	広聴事業の概要	1
2	意見の整理	2
	（1）未来創造部会	2
	（2）安全安心部会	8
	（3）活力元気部会	12

1 広聴事業の概要

(1) 目的

第3次射水市総合計画の策定に向け、現計画の検証と今後のまちづくりについて多くの市民から提案、提言を求めるため、市長と市民（団体等）とが意見交換を行う場を設けるもの。

(2) 実施概要

■市長のタウンミーティング（対象：市民）

開催日	場所	参加者数
令和3年8月9日	救急薬品市民交流プラザ 1階ふれあいホール	61名
令和3年8月10日	射水市役所 3階会議室	54名
令和3年8月11日	クロスバイ新湊 2階iCNホール	57名

■市長とのまちづくりミーティング（対象：各種団体等）

開催日	団体名	参加者数
令和3年7月20日	農業・水産業関係	11名
令和3年7月30日	国際交流関係	8名
令和3年8月4日	P T A連絡協議会	11名
令和3年8月10日	市内高等学校学生	10名
令和3年8月12日	商工業関係	5名
令和3年8月27日	青年会議所	4名
令和3年10月4日	地域振興会連合会	20名
令和3年10月4日	射水まちづくりネットワーク	8名
令和3年10月6日	子ども・子育てワーク会議	4名
令和3年10月11日	社会福祉団体	17名
令和3年10月11日	芸術文化・スポーツ関係	11名
令和3年10月14日	女性団体	8名
令和3年12月13日	高等教育機関学生	8名

■まちづくりに対するメール等での意見

開催時期	概 要
令和3年8月～10月	58件の意見提出

2 意見の整理

(1) 未来創造部会

市長のタウンミーティング

■子育て支援

- ・放課後児童クラブへの入級の規制を緩和し、誰もが入級可能な体制づくりの検討を。

■学校教育

- ・他県では、義務教育学校で特徴的な教育を行ったことで、移住者が増加したという実例があり、こうした教育の取組が地域の活性化につながるのではないか。
- ・ICTの活用には基礎教育が最も重要である。

■情報（DX）

- ・市内には情報系のコースを持つ高校や大学があるので、その学生と一般市民が一緒になってDXを推進することはできないか。
- ・情報化が進むあまり、取り残される人がいるのではないかと心配である。

■生涯学習・芸術文化

- ・文化施設におけるピアノのレンタル料が負担であるため、学生や子どもなど誰もが利用しやすい料金設定の検討を。

■女性活躍

- ・女性活躍と言われている中、市当局でも女性の登用を。（現在の状況は残念である。）

■多文化共生

- ・射水市は外国人が多いため、交流の場を設けることを重点に置いてはどうか。

■定住・移住

- ・若者の移住だけでなく、老後の移住の場所としての射水市のかたちも検討すべきである。

■市民協働

- ・最近、行政事務の一部を地域で担っている部分が多い。無償では困難であり、持続する場合は、有償ボランティアが必要である。
- ・地域と若者が日常的にかかわり合えるような取組が必要ではないか。
- ・住民自ら行動し、実践していくリーダーが必要である。

■行財政運営

- ・市長がリーダーシップを発揮して市民目線で政策を進めてほしい。その際、市内でも地域ごとに必要な政策が違うので、各地域の実情に合った政策に取り組んでほしい。
- ・義務的経費のうち扶助費が増え人件費が減っているが、若い職員のやる気が削がれるのではないか。
- ・次世代のためにも借金を減らしてほしい。
- ・財政不足などのマイナス面も市民への理解を得ながら市政運営すべきである。

■シティプロモーション

- ・音楽と海王丸パークのコラボなど、射水市の素敵なおところをもっと県や市の内外に発信してはどうか。

市長とのまちづくりミーティング

※（青）青年会議所、（P）PTA連絡協議会、（商）商工業関係、（国）国際交流関係、（高）市内高等学校学生、（農）農業関係、（水）水産業関係、（地）地域振興会連合会、（ま）射水まちづくりネットワーク、（子）子ども・子育てワーク会議、（福）社会福祉団体、（芸）芸術文化関係、（ス）スポーツ関係、（女）女性団体、（学）高等教育機関学生

■子育て支援

- ・子育てしやすい環境、社会づくり「ベビーファースト運動」の実践を。（青）
- ・親になる人の不安の解消、知識の習得等の支援の充実（学）
- ・子どもとの関わり方や発達についての専門的な指導・助言の充実（子）
- ・仕事と子育ての調和のためにも認定こども園が増えると良い。（子）
- ・医療費の現物給付の対象拡大を。（子）
- ・小さな子どもの夜間救急に対応できる病院があれば良い。（子）
- ・スマートフォン、SNS等の利用について（ノーメディアデーの創設など）（子）
- ・雨の日にも室内でサッカーや野球ができる施設の整備（子）
- ・子ども自身が楽しめる住みやすいまちづくりの推進（学）

■教育

- ・部活動の指導者確保（地域移行に向け、保護者等様々なサポートの必要性）（P）
- ・部活動の選択肢が少ない。活動できる場の充実（P）
- ・コロナ禍で学校行事が減っているが、多様な体験ができる環境づくり（P）
- ・中学生に職業学習の機会（商）
- ・不登校児童生徒への学校外施設の紹介（ま）
- ・地域について学び、知る機会・教育の充実（学）

■歴史文化・スポーツ・レクリエーション

- ・歴史的価値がある大切な資料の消失・流出の防止（ま）
- ・若い子育て世代や高校生等の参加促進、活動支援（芸）
- ・地域と学校が連携した文化芸術活動の推進（芸）
- ・射水市の特色を活かしたイベント等の開催（人間国宝石黒宗麿等）（芸）
- ・プロスポーツの試合ができる施設の整備、トップアスリートの育成支援（ス）
- ・地域による部活動運営における指導者の育成、運営の仕組みづくり（ス）
- ・子どもや高齢者の体力づくりの推進（ス）
- ・体育施設の老朽化対策と有効活用（ス）
- ・キャンプなどアウトドア活動ができる場の充実・周知（学）

■情報（DX）

- ・情報弱者を取り残さず、誰もが情報通信技術・機器を活用できる未来を（女）

■多様性・多文化共生

- ・日本に定住するにあたり、最初のギャップ、違和感へのサポート（国）
- ・行政から外国人住民に向けた情報発信の強化（SNSの活用、多言語、各国キーパーソンとの連携）（国）
- ・自由に集まることのできる国際ラウンジの設置（国）
- ・外国人を支援するという考え方からの脱却（共生「つながり」）（国）
- ・パートナーシップ制度の導入（国・高）
- ・交流活動・つながりから生まれる相互理解・多文化共生（国・高）
- ・多様性を理解し、受け入れ、認め合う教育や取組、制度の導入（P）
- ・外国籍の方の比率が高いという点をもっとアピール（高）
- ・性別や年齢、障害の有無にかかわらず活躍できる就労環境の充実（若い世代、女性が輝けるまちに）（商）
- ・多文化共生、ダイバーシティ、インクルージョンなど様々な選択肢があるまちに。（青）
- ・宗教の違いによる葬儀、埋葬問題への対応。問題解決には、地元住民との意思疎通、連携が大切（ま）
- ・固定的な性別役割分担意識の解消に向けた取組の推進（女）
- ・女性人材リストの活用、審議会等委員の積極的な登用（女）

■地域活動・連携

- ・担い手の減少が課題。市職員の地域での活動、関わり方が重要（地）
- ・新湊、小杉のまちづくり協議会の連携・情報共有（下条川の遊覧船運行など）（地）
- ・子ども、高齢者を地域で支えていく仕組みづくり（地）
- ・高等教育機関と連携したDXのモデル地区の実施（地）
- ・各地区での成功事例の横展開（地）
- ・市民団体、地域振興会、行政が連携し、知恵を出し合うことが必要（地）
- ・個人、団体、地域、行政などが上下等の関係なく対等に対話できる場が重要（ま）
- ・まちづくりネットワーク活動の拠点が必要（ま）
- ・合併後も同じような団体がそれぞれ活動が続けている。再点検・見直しを。（地）
- ・地域団体の会員の高齢化、会員数の減少が課題（福）
- ・空き家を活用した活動拠点の整備、事務局機能の強化（福）
- ・高齢者が活躍できる地域づくり（学）
- ・学生と元気な高齢者が連携したまちづくりの推進（学）

■市民協働

- ・各種団体が手を携えて足りないものを補い合いながら進むことが大切（青）
- ・働く人や子育て世代が参画できる仕掛け・工夫（地）
- ・協働事業における単価の見直し（公園管理など）（地）
- ・地域貢献の視点から企業への働きかけ（地）
- ・持続可能な活動のためにも稼げる仕組みづくり（ま）
- ・次期総合計画のキーワードに「人づくり」「人につながる」を。（ま）

- ・「協働のまちづくり基本指針」の見直し（ま）

■シティプロモーション

- ・射水市の魅力をもっとPR（水産物・子育て支援等）（水・高）
- ・射水市ならではのもの、射水市にしかないものの創出、発信（学）
- ・市民や外国人の力を活用した効果的なSNS発信（国・高）

■関係人口

- ・30歳で集まる機会の創出（青）

■若者に選ばれるまち（移住・定住）

- ・家賃補助・奨学金返還助成等、各種制度の周知（学）
- ・SNSの幅広い活用、頻度の高い更新等による市の魅力の情報発信（学）
- ・学生・卒業生をターゲットにした移住・定住施策の推進（学）
- ・学生がまちづくりに参画する機会の充実（学）

■その他

- ・20代、30代の独身、子どもがいない大人への支援策（高）

まちづくりに対するメール等での意見

■結婚・出産・子育て支援

- ・妊娠や出産の心理的・経済的負担の軽減に向けた制度を創設・充実してほしい。
- ・コロナ禍にあり、子育て支援を今より手厚くしてほしい。
- ・育児休暇の取得時、未満児でも退園せずそのまま預けられるように。
- ・婚活パーティーを活性化すべき。
- ・つどいの広場や一時預かりなど、他の親子と交流できる場を増設すべき。
- ・地域の子育て支援のための人材育成が必要である。
- ・子育て期の家族が子どもと過ごす時間を十分確保できるよう、職場の働き方の見直しが必要である。
- ・フランスの少子化政策「シラク3原則」が参考になるのではないか。

■学校教育

- ・近年、不登校児童生徒が増え、コロナ禍で増加しているものと思われる。支援団体同士の横の連携や必要な情報の積極的な提供、多様な学びの場の確保を望む。
- ・貧困や体調不良などで教育を受けられない人への支援や講座等を実施してほしい。
- ・様々な人と関わり多様性を学ぶためにも小学校合併を進めてほしい。その際、バス通学を検討してほしい。
- ・射水市は小中高とも吹奏楽が盛んであり、市内に防音設備がついた練習場所をつくってほしい。
- ・日本でも高水準の教育が受けられるまちになるといい。特にオンライン教育に力をいれるべき。
- ・「知育」「体育」と併せ、「徳育」にも力を入れていくべき。

■生涯学習・スポーツ・文化

- ・市内にスケートボードの大型屋内練習場をつくってほしい。
- ・地域固有の自然・文化等を盛り上げ、放生津八幡宮祭の曳山・築山行事を住民自身で継承し、未来のまちづくりにつなげることが重要である。

■情報（DX）

- ・あらゆる問題解決に向けて、市内高等教育機関と連携したプロジェクトチームの設置と射水型DX起業家支援を目指してはどうか。

■若者のまち

- ・独身世代への支援の充実や若者が集まるような施設、イベントの実施をしてほしい。
- ・子育て世代やこれから家庭を築いていくであろう若者が集い、地域を活性化させる取組が必要である。
- ・地域活動等に若年層を参加させる取組が必要である。

■定住・移住

- ・学生時代を市内で過ごした人や仕事関係で居住している人に、定住地として選んでもらえるアプローチしてはどうか。
- ・市民の「わがまち意識」を醸成するため、各地域で大切にされてきた歴史・文化をさらに掘り起こし、内外に伝えていくべき。
- ・他の区市町村と差別化した施策の提示により、射水市への移転を検討している人に驚きと感動を与えることができれば、具体的な行動につながるのではないかな。
- ・昨今のコロナ禍、異常気象は地方移転の起爆剤となるかもしれないため、ニーズを的確につかみ、受け入れる体制を整えておく必要がある。
- ・都会の大学に進学した者の県内へのリターン率が低いため、大都市にある大学の一学部や外国の大学の分校を誘致することを検討してはどうか。

■人権・多様性・多文化共生

- ・性的指向・性自認の尊重や啓発に取り組んでほしい。また、性のあり方に悩む市民やひきこもり、不登校の児童生徒等が気軽に集える居場所の設置・拡充を希望する。
- ・イスラム教の墓地があると良い。
- ・見た目や言葉、文化の違いなどを認め合える市に向けて、市民への理解促進や外国人コミュニティとの連携・情報交換、効果的な情報提供等を行っていく必要がある。

■市民協働

- ・部門間・地域間での連携や地域での自発的な活動を支援する取組が重要である。
- ・新たに地域振興会連合会立ち上げの目的は「自分たちのまちは自分たちでよくしていく」ことであり、特色を活かした活動ができる仕組み・体制を検討してほしい。
- ・射水市のよいところを自分たちで再生、もしくは新しいことを自分たちの手でやり、夢のある市にしたい。
- ・工夫を凝らしたすばらしい取組が宣伝不足であり、どのように門戸をたたけばいいのかかわからず、また敷居が高い感じがある。
- ・クロスバイ新湊、いみず市民交流プラザの稼働率を上げ、社会教育を通じて市民活

動を充実させるべきである。

- ・地域活動の多くの点を線で結び、面に広げていくため、情報が1か所に集まるプラットフォームを設けてはどうか。
- ・まちづくりが自分ごとになるワークショップやリーダー育成のためのセミナーの開催、相談できる場の創出等により、能動的な人づくりを行ってはどうか。

■シティプロモーション

- ・「世界一美しい富山湾」を射水市から世界に発信し、世界各国から観光に訪れる射水市を目指してはどうか。
- ・魅力あるまちづくりに向けて、射水市の里海・里山から全国にSDGsを発信していくことが不可欠である。

■行財政運営・公共施設

- ・職員研修を応援するオンラインプラットフォームを構築してはどうか。
- ・中伏木小学校や新湊西部保育園など廃校・園を活用してはどうか。
- ・過疎化が進む中、適正な税金の使い道を考えてほしい。
- ・海王丸パークや万葉線の運営主体を見直し、経済効果を上げる体制の構築や健全経営化を図るべき。
- ・行政の効率化に向け、DXの大胆な導入や市有施設・事業の更なる縮減、広域連携等を進めるとともに、外部機能・資金の取組・活用を進めるべき。

※計画策定

- ・新しい総合計画では、市民一人ひとりがその成果を実感できるわかりやすい目標と具体的な施策を示すべき。
- ・施策立案のプロセスは最大限オープンにし、透明性を高め、施策に対する信頼を得ることが重要である。
- ・施策検討にあたり、女性の視点から検討することができるよう、審議会委員の男女比を工夫してほしい。
- ・活気あるまちの形成・維持を図るためにも、最初に目標人口を決める必要がある。
- ・計画の策定にあたっては、富山大学都市デザイン学部の力を借りることも検討してはどうか。

(2) 安全安心部会

市長のタウンミーティング

■福祉・保健・医療

- ・ひきこもりで自立できない、生活できない子どもが親からの支援がなくなったとき、生活保護にならないよう、子どもたちに寄り添った支援策が必要ではないか。
- ・誰一人取り残さないためにも、ひきこもりの人たちが何を考え、どのような支援を求めているのか、小さな声をしっかりと拾ってほしい。
- ・必要な福祉保健情報等を受け取れるよう多様な手段による情報発信を工夫してほしい。
- ・国、県、市が問題を共有し、少子高齢化とひきこもり問題をセットにして対応してほしい。

■防災・消防

- ・誰もが安心して過ごせる避難所運営が必要である。
- ・山間部や臨海部で災害があった場合、例えば、相談窓口は各地域で受け付けるような被災した市民に寄り添った行政の対応、配慮が必要である。
- ・太陽光パネルの設置による森林の保水力の低下が心配である。

■環境・エネルギー

- ・リサイクル強化の大前提として、プラスチックの消費量そのものを減少させることが重要であり、「プラスチック・スマート先端都市射水」を掲げるのであれば、リサイクル率の目標値が低いと感じる。
- ・射水市の処分場の処理代金が高い。
- ・SDGsの取組を市で進めるにあたり、民間と一緒に海岸等の清掃を行うボランティアの体制をつくってほしい。

■公共交通

- ・コミュニティバスの路線が8月に変更になり、バスの経路やバス停の表示がわかりにくくなった。利用者の立場に立った表示の仕方等を考えてほしい。
- ・バスの料金統一化、低料金化を図ることはできないか。
- ・利用者目線で路線を組むために、利用者アンケートを実施すべきである。

市長とのまちづくりミーティング

※（青）青年会議所、（P）PTA連絡協議会、（商）商工業関係、（国）国際交流関係、（高）市内高等学校学生、（農）農業関係、（水）水産業関係、（地）地域振興会連合会、（ま）射水まちづくりネットワーク、（子）子ども・子育てワーク会議、（福）社会福祉団体、（芸）芸術文化関係、（ス）スポーツ関係、（女）女性団体、（学）高等教育機関学生

■福祉・保健・医療

- ・インクルーシブの視点による総合計画の策定（ま）
- ・ひきこもりにおけるピアサポートを加えた相談の実施（ま）

- ・障がい児支援と学校現場との連携（ま）
- ・作業療法士（ＯＴ）、理学療法士（ＰＴ）の確保（子）
- ・地域での世代間交流・つながりの創出と見守り、支え合いができる環境整備（子）
- ・福祉推進員、民生委員児童委員、保護司など担い手の育成・確保（福）
- ・顔の見える関係性、地区社協、地域振興会単位での活動の活性化（福）
- ・地域ごとに問題解決を図る組織づくり（福）
- ・人材育成におけるＤＸを活用した研修の実施（福）
- ・地域共生社会の実現、いみず地域共生プランの推進（福）
- ・様々な形態のグループホームの設置（福）
- ・地域振興会や商工会議所と福祉との連携（福）
- ・災害時避難支援において高齢者だけでなく障がい者も。（福）
- ・ひとり親の声を聴く機会の確保・充実（女）

■公共交通

- ・公共交通機関（バス・鉄道）の充実（高・学）
- ・通院や買い物といった生活に特化したバスの運行（地）
- ・公共施設、商業施設、観光拠点等に移動しやすいまちに。（子・学）
- ・地域コミュニティによるバス運営の推進（学）

■道路

- ・危険箇所の安全確保（高）

■土地利用

- ・里海・里地・里山の３つの地域のバランスのとれた発展（ま）
- ・仮称射水市南部丘陵地域開発計画の策定、メガソーラー規制条例の制定（ま）
- ・ＳＤＧｓを射水市の里海・里山から発信（ま）

■防災・減災

- ・女性の視点による地域防災活動の推進（女）

■防犯・交通安全

- ・子どもたちが安全・安心に登下校できる環境づくり（女）
- ・夜間でも女性が安心して歩くことができる環境の整備（学）

■環境

- ・海ではコンクリートやゴミ投棄への対応、温暖化に対する取組が必要（農・水）
- ・川から流れ海へと出ていくゴミ問題の解決（農・水）

まちづくりに対するメール等での意見

■福祉・社会保障

- ・地域住民がどのような状況に遭遇しても、ふれあいの絆の中で、自らの知識・能力を最大限発揮しながら、生きがいを持って主体的に暮らし、尊厳が保たれている社会を目指すべき。

- ・第1層及び第2層の生活支援コーディネーター並びに生活支援協議体構成員を倍増し、充実したネットワークの構築に取り組むべき。
- ・観光地や飲食店での環境整備やその情報発信も含め、障害のある人も住みやすく、楽しめるまちづくりを要望する。
- ・同じ場所で相談や手続きができると負担が少なく、相談しやすい。
- ・コロナ禍において、給付金の支給など金銭面での支援を強化してほしい。
- ・よりIT化が進む中であって、一人も取り残されることのないよう、実際に声を掛けあい町単位で生活していくことが重要である。
- ・少子高齢化社会においては、若者が高齢者を支えるという考え方から、年齢に関係なく困っている人に給付を集中する社会へのパラダイムシフトが必要である。
- ・高齢者が特技を生かした仕事やボランティア、趣味等で社会参加しやすい環境整備が必要である。

■健康づくり

- ・世代を問わないアスレチックコースや気軽に利用できる練習場の整備など、体力づくり、健康年齢向上のための場を創設してほしい。
- ・元気な高齢者づくりを目指し、介護予防や認知症予防、生活支援サービス等を企業化してはどうか。

■病院

- ・赤字部門の市民病院は営業時間を見直し、例えば夜間営業を取り入れることも必要ではないか。

■防災・減災

- ・下条川の治水対策や平野部への高台整備及びその周知が必要。

■環境・エネルギー

- ・射水南部丘陵地域における自然との共生及び均衡のとれた開発を図るための取組を計画的に進める必要がある。
- ・コンパクトシティを進めるにあたり、居住地以外での大規模ソーラー、風力発電を誘致し、エネルギーの地産地消を先駆的に進めていくべき。

■公共交通・道路

- ・これから多くの人が免許証を返納する時が来る。利用者の立場に立ち、実情に合ったコミュニティバスの運行を考えてほしい。
- ・射水線のライトレールでの復活や新湊大橋の4車線化など、交通の便がよいまちづくりを。
- ・自転車道の整備や使えるバスルート・ダイヤ、他の移動手段の検討など交通弱者も住み続けられるまちづくりを。
- ・富山市への通勤渋滞がひどい。なんとかしてほしい。
- ・子どもや高齢者にも安心なウォークアブルなまちづくりや親和性の高い公共交通、パークアンドライド、シェアカー、Ma a Sなどを進めてほしい。
- ・超高齢化社会において、自動運転を含めた電動バスの導入やオンデマンドタクシー

の全域化、歩道のバリアフリー化等を行う必要がある。

■雪対策

- ・アンケート結果をみても雪対策は市民ニーズの上位であり、それに応える予算配分が必要である。

■新型コロナ対策

- ・感染しても安心して治療・療養できる体制の強化を図るとともに、地域経済において雇用維持が損なわれない体制をつくる必要がある。

※計画策定

- ・新しい総合計画では、市民一人ひとりがその成果を実感できるわかりやすい目標と具体的な施策を示すべき。
- ・施策立案のプロセスは最大限オープンにし、透明性を高め、施策に対する信頼を得ることが重要である。
- ・施策検討にあたり、女性の視点から検討することができるよう、審議会委員の男女比を工夫してほしい。
- ・活気あるまちの形成・維持を図るためにも、最初に目標人口を決める必要がある。
- ・計画の策定にあたっては、富山大学都市デザイン学部の力を借りることも検討してはどうか。

(3) 活力元気部会

市長のタウンミーティング

■観光・港湾・商工業

- ・にぎわい創出としてクロスベイ新湊でストリートピアノを演奏したが、音の質にも気など細かな部分にも配慮を。
- ・クロスベイ新湊の幅広い活用ができると良い。
- ・海王丸パークの活性化をもっと考えてほしい。
- ・新湊大橋、海、立山、祭りなどの観光資源を生かすことが大切である。

■企業誘致

- ・射水市に I K E A のような魅力的な商業施設ができれば射水市に住みたい人、射水市に来る人も増えるのではないか。

■土地利用

- ・隣との境界がはっきりせず、将来トラブルを招くことが懸念されるため、住宅地の地籍調査も進めてほしい。

■生活基盤

- ・若者の移住促進は将来の空き家を生むことが考えられる。コンパクトなまちづくりを進めるべき。

市長とのまちづくりミーティング

※（青）青年会議所、（P）PTA連絡協議会、（商）商工業関係、（国）国際交流関係、（高）市内高等学校学生、（農）農業関係、（水）水産業関係、（地）地域振興会連合会、（ま）射水まちづくりネットワーク、（子）子ども・子育てワーク会議、（福）社会福祉団体、（芸）芸術文化関係、（ス）スポーツ関係、（女）女性団体、（学）高等教育機関学生

■観光・港湾・商工業

- ・担い手不足、職人の確保、技術の継承（商）
- ・個人、マイクロツーリズムへの移行（商）
- ・DX推進のためのアドバイザーの設置（商）
- ・需要と情報発信のタイミングのマッチ（商）
- ・若者から支持される取組にチャレンジ（青）
- ・商店街・個人商店・飲食店等の魅力の発信（学）
- ・雪を活用したイベントの開催（学）

■農林漁業

- ・生産性・収益性の高い農業経営の実現（ほ場の大区画化、市街化調整区域に見直し）（農）
- ・スマート農業・水産業に向けた支援（農・水）
- ・農水産物のブランド化（味の差別化だけでなく、ストーリー性を持たせる）（農・水）
- ・新規就農（漁）者、担い手の育成・確保（資格取得への支援）（農・水）

- ・地産地消、食育、魚食文化の普及（子どもの時から継続的に）（農・水）
- ・6次産業化への取組（個人では難しい）（農）
- ・水産資源の持続（人間が行う行為による影響の啓発、白エビ漁の継続など）（水）

■就労環境・起業支援

- ・性別や年齢、障害の有無にかかわらず活躍できる就労環境の充実（若い世代、女性が輝けるまちに）（商）
- ・中学生に職業学習の機会（商）
- ・プレーヤーが気軽に進出できる環境づくり（商）
- ・新規創業者向け家賃補助制度（商）
- ・10年後、子どもたちが射水で働ける環境づくり（商）
- ・民間企業においても子育て中に休める環境づくり（商）
- ・事業承継、若者の創業支援（商）
- ・生涯にわたり活躍でき、働くことができる、健康でいきがいのあるまちに。（福）
- ・育児休業がとりやすい就労環境づくりに向けた企業への働きかけ（女）
- ・DXを活用した仕事と子育ての両立の推進（女）

■都市整備

- ・休日過ごす施設の整備（学習スペース、商業施設など）（高）
- ・学生が遊ぶ場所の選択肢の充実（学）
- ・道路で危険な箇所、事故が起こりやすい箇所の改善（P・高）

■生活基盤

- ・空き家、空き地の利活用（青）

まちづくりに対するメール等での意見

■観光・港湾・商工業

- ・マリンスポーツなど余暇を楽しく過ごせるまちになってほしい。
- ・海王丸パーク周辺に神戸や横浜のように商業施設を増やし、賑やかにしてほしい。
- ・県外から人を呼べるくらいの海釣り公園の整備や海王丸パークへのラジコンコースをつくってはどうか。
- ・映画館ができてほしい。
- ・観光地への誘導をわかりやすくため、主要な幹線道路に大きな標識を増設してはどうか。

■企業誘致

- ・8号線沿いへの超大型店舗の誘致や大型サッカースタジアム建設、大規模な企業団地の設置及びDX関連・IT関連企業の誘致により、過疎化しないまちづくりを。
- ・富山新港周辺及び各企業団地への企業誘致を活性化させ、雇用創出を図るべき。特に県内に本社を持つ上場企業を対象とした誘致活動を展開してはどうか。
- ・市の賑わいを創出する商業店舗や将来にわたり環境を重視する製造業、国内外の研

究所等の誘致が重要である。

■都市整備

- ・市内の空き地や公園等を活用し、キャンプが可能なように整備してはどうか。
- ・人口減少時代においては、都市集中型社会モデルを見直し、ライフライン及びインフラを整備し、安全・安心なまちづくりを推進すべき。
- ・より詳細な人口予測や災害予測に基づき、様々な機能を集約したコンパクトシティを実現していく必要がある。

■居住環境

- ・空き家が密集する地域において、若者家族が移住できる集合住宅及び公共施設・店舗等を配置した整備を進めてはどうか。
- ・内川沿いの空き家をリノベーションし、シェアハウスとして貸し出すなど利活用することで、人が集まり、魅力を発信していくことができるのではないか。

■起業支援

- ・未来ある若者がビジネスをする場所として選び、チャレンジできるよう、地域で挑戦者を応援する機運を盛り上げてはどうか。

※計画策定

- ・新しい総合計画では、市民一人ひとりがその成果を実感できるわかりやすい目標と具体的な施策を示すべき。
- ・施策立案のプロセスは最大限オープンにし、透明性を高め、施策に対する信頼を得ることが重要である。
- ・施策検討にあたり、女性の視点から検討することができるよう、審議会委員の男女比を工夫してほしい。
- ・活気あるまちの形成・維持を図るためにも、最初に目標人口を決める必要がある。
- ・計画の策定にあたっては、富山大学都市デザイン学部の力を借りることも検討してはどうか。